

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを尊重したケアを展開することによって、利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらにそのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていく……。そういった笑顔の連鎖の出発点となれるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三島団地の横にある小高い丘に事業所はあり、自然豊かな環境に恵まれている。代表者をはじめ管理者、職員は、理念に沿って利用者を「生活のパートナー」として考え、人としての尊厳を大切にしている。管理者は職員に向上心を持って仕事に取り組んでほしいと考えており、職員一人ひとりが毎月の目標を立て、日々切磋琢磨しながらサービスの向上に努めている。職員は、代表者や管理者と関係性は良く、事業所は和やかな雰囲気となっている。また、職員は一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを実践しており、利用者が穏やかに楽しく生活できるよう努めている。職員の研修にも力を入れており、人材育成とサービスの向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

<b>事業所名</b>	グループホームわたしの青空
<b>(ユニット名)</b>	東通り
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	荒谷 留里
<b>評価完了日</b>	平成 26 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) リビングに理念を掲示し、日々の実践の検証軸として活かすように心がけている。</p> <p>(外部評価) 理念は事業所の開設時に代表者が作成している。利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、「介護を受ける、介護を提供する」のではなく、職員は利用者を「生活のパートナー」として捉え、職員全員で共有してケアに取り組んでいる。また、職員は利用者が話題の中心になり、話しやすいよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の保育所とは定期的に交流の機会があり、小学校とも不定期ではあるが交流の機会がある。また、地域の自主防災組織と合同で学習会や懇親会を行うなど、地域との交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 事業所に隣接する町営団地の住民を対象に認知症や車いすの移乗の仕方などの勉強会を開催し、事業所から地域へ情報を発信し関係性を築きつつある。事業所には、保育園児の訪問があり踊りを披露してくれたり、小学生が訪れ利用者とふれ合うなど交流をしている。近隣の住民が採れたての野菜を持って来てくれるようになるなど、管理者は地域とのつきあいが広がっていることを実感している。これからも地域住民との交流が深まるよう取組む姿勢が伺える。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年度は認知症に関する座談会を開催したが、本年度は地域の自主防災組織の役員を対象に、高齢者の移乗介助方法を紹介する機会を設けた。今後も機会の拡充に努めたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示していくことに努めていることもあり、利用者家族等からは、いつも事業所を後押ししてくださるスタンスでの発言が多く、大きな励みになっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、区長、町担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の状況や課題等を報告し、参加者と意見交換をしている。最近、参加者に退所した利用者の家族が加わり、貴重な意見を聞くことができている。また、毎回会議前に特産品などの試食会やそうめん流しなどの行事を一緒に開催する工夫をしており、参加者から喜ばれている。これからも、より良い会議になるよう参加者や内容を検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議への毎回の出席をとおして、事業所の状況をよく理解していただいております、平素から懇切な支援をいただけるなど、良好な協力関係が維持できている。</p> <p>(外部評価) 町担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や利用者の相談をするなど、日頃から気軽に相談できる良好な関係を築いている。また、ヒヤリハットや困ったことの実情を伝えている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 「身体拘束等の排除の理念及び方針」を定めており、職員研修等を通じて、身体拘束をしないケアについての認識の徹底に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束等の排除の理念及び方針」を作成し、利用者に寄り添いながら見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所の新人研修に身体拘束等のテーマを取り入れ、職員会で話し合うなど理解して実践している。気になる行為があった場合には、管理者がその都度指導をしたり、職員同士で注意し合ったりしている。言葉の拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応を行っている。また、玄関は日中は開放し、利用者は自由に出入りしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めており、その徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際はもちろん、平素の来訪時に、くつろいだ会話の中からさりげなく意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議の出席時や面会時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。家族は、遠慮をして要望を言わないことが多く、職員は話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。利用者には、ゆったりとした時間に職員が寄り添って聞くよう努めており、食べたいものの希望を言うことが多い。また、出された意見や要望には迅速に反映するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、また、必要な都度、意識調査を実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は、日々の業務の中で気づいたことを気軽に管理者に伝えることができるほか、毎月の会議で活発に意見が出されている。代表者と管理者は気さくで話しやすく、職員との良好な関係が築かれている。管理者は、職員の意見を尊重し、働きやすいシフトを作成するなど職場環境や関係づくりを大切して、コミュニケーションを図るよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また、希望する職員には、事業所負担で、産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修会が職員育成の主な機会となっている。法人外の研修等についても、情報提供に努め、職員の受講を促すようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 事業所開設時から伊予市の「グループホーム土香里」と親密な交流があり、学ばせていただいたことをサービスの質の向上に活かせるように努めている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、事業所を見学していただき、家族等の話に耳を傾け、心配事や要望等を安心して話していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、生活を注意深く見つめ、本人の「できることは何か」、「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出し、していくことに意識を傾け、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中にこのことを掲げ、職員と利用者とを「介護する側・される側」ではなく「生活のパートナー」であるとする捉え方を、全職員に徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、利用者本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていこうとしている事業所の思いが伝わるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪された際、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。  (外部評価) 三味線の先生をしていた利用者に以前のお弟子さんの訪問があったり、知人から季節毎に絵ハガキが届いたりしている。また、行きつけの美容室や提携している理容室の訪問があり、馴染みの関係ができています。調査時に、よく訪問がある利用者の姉妹の面会があり、心づかいをしながら対応する職員の姿が見られた。また、ドライブを兼ねて利用者の馴染みの場所に出かけている。また、家族の協力も得ながら馴染みの関係が継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。中には、利用者が亡くなられて契約終了となった後も、引き続き運営推進会議に出席して下さっている方もある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ダイレクトに思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中で見られるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるよう努めている。 (外部評価) 利用者の一人ひとりに向き合いながら、日常会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めている。入浴時や居室で職員と1対1になった時に、利用者から思いを聞くことが多い。把握が困難な利用者には、手を握ったりタッチコミュニケーションを図りながら、表情や行動を見て感じとることもできている。また、職員が個々に知り得た新たな情報は、記録をするなど職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて、職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 折りに触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、忌憚のない意見を述べ合って、介護計画の作成に反映させている。</p> <p>(外部評価) 利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいかを考え、利用者や家族の意見を反映して、担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。管理者は、職員の意見を聞き取りながら介護計画がより良いものになるよう努めている。毎月モニタリングをして評価を行い、半年に1回見直しをしている。また、状態の変化に応じてその都度見直しもしている。利用者の介護記録などは、個別に1冊のファイルに保管し、分かりやすく整理をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスの際には、こういったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直しに役立てている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) そこまでの取り組みはない。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 町内の踊りの愛好者に踊りを披露していただいたり、地元高校吹奏楽部OGにお願いし、楽器を演奏していただいたりするなど、地域の人材活用に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かか りつけ医への連絡はこまめに行っている。  (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を職員が同行して受診がで きるよう支援している。月1回協力医の往診や歯科医の往 診が受けられる体制が整っている。専門医の受診に職員が 同行することもあり、医師に状態の報告等を行い連携を図 りながら利用者の健康管理の支援に努めている。また、受 診内容は家族に連絡し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員に伝 えて相談するようにしており、常に適切な対応がとれるよ うに心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むように、 普段から病院の医師・看護師に対して報告・連絡・相談を こまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、主治 医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づいた取 り組みを行っている。  (外部評価) 「看取り介護（ターミナルケア）に関する指針」を定め、 協力医と連携を図りながら看取り支援に取り組んでいる。 今までに5名の看取りの経験があり、利用者や家族の思い に寄り添いながら、穏やかな終末期を一緒に過ごすことが できた。これからも利用者や家族等の意向をその都度確認 しながら、利用者の思いを大切に安心して終末期を過ご せるよう取り組む方針としている。急変時に備え、管理者が 事業所に待機するなど迅速な対応ができる体制を整えている。 また、看取りなどの勉強会や話し合いを行い、職員の 不安解消などにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 非常時の協力体制について、本年度、地域の自主防災組織との間で合意ができたので、今後は事業所において合同訓練を定期的実施し、実効性の確保に努めたい。  (外部評価) 年2回避難訓練を行う方針であるが、今年度はまだ1回しか実施できていない。今年度、隣接する町営団地の自主防災組織と協力体制が築かれ、4月には合同防災訓練を実施する予定である。また、災害時には事業所を避難所として使えることを町営団地の住民に伝えている。水や食料など備蓄品等を用意し、利用者の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	職員だけでの利用者の避難誘導には限界があることを具体的に確認し、地域消防団等の参加を呼びかけ、事業所の災害対策に関する理解を求めていくことを期待したい。また、運営推進会議等を利用して事業所の見学会を開催するなど、地域住民に事業所を知ってもらい身近な関係性を築くことも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者にあった話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。  (外部評価) 利用者の尊厳を大切にし、職員は敬語や方言をその時の状況で使い分け、利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意し、利用者一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。また、個人情報保護に関する方針を作成し、適切な取扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容師によるカット・パーマを利用していただき、快適に過ごしていただいている。また、希望される女性利用者には、職員が化粧やマニキュアの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に、材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒にさせていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者の好みのメニューを聞いたり、季節毎に特別メニューを提供している。食材は宅配会社から届き、昼と夜は専属の調理職員が調理している。食事は、プレートでお好み焼きや焼きそばを焼きながら食べることもあり、利用者が楽しめるよう工夫をしている。職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話しながら食事をしており、台拭きや片付けなど利用者ができることを手伝うなど、楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、スポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようになっている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。失禁のある利用者には紙パンツを使用したり、夜間にはポータブルトイレを使用するなど、利用者に合った支援をしている。ユニット毎に3か所トイレが設置されており、利用者の状態に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の水分摂取量をチェックしながら、適度な食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のない時は、医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫し、実際に入浴が好きになった利用者もいる。また、希望に応じて同性介助の対応をしたり、浴槽を跨げない利用者には2人体制で介助をし湯船に浸かってもらうなど、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況や希望によって、行き先や所要時間の長短には違いはあるが、可能な限り外出の誘いかけをし、支援するように努めている。	
			(外部評価) 小高い丘の上に事業所があるため、利用者の安全面を考え事業所周辺の散歩は難しく、玄関先で日常的に外気浴をして気分転換を図っている。利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、ドライブを兼ねて車いすの利用者と一緒に遠出したりしている。また、家族等の協力も得て外出できる機会を持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室入りロドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。</p> <p>(外部評価) フロアを中心にキッチンがあり、利用者の様子を見渡すことができる。リビングは広く、天井は部分的に吹き抜けになっており、天窓から自然な光が差し込み明るい空間となっている。利用者はソファなど思い思いの場所でくつろぐことができる。天井から季節の飾りつけを吊るし、季節感が感じられるよう工夫をしている。環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安心安全に過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また、気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコンが備え付けとなっている。ベッドは普通と介護用の2種類があり利用者の状態に合わせて使い分けているほか、ベッドを使用せず床に布団を敷き寝ている利用者もいる。居室には使い慣れたタンスやテレビ、仏壇等が持ち込まれ、家族との写真や家族が持ってきた生花が飾られている。利用者の個性のある空間づくりがされており、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。また、居室の入口には訪室表がかけてあり、職員が居室の換気や入退室の確認、リビングと居室の温度差をなくすよう工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 「できること」「分かること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームわたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や生活のペースを尊重したケアを展開することによって、利用者の笑顔が暮らしの中にあふれるようになり、さらにそのことが、利用者家族の生活の中に笑顔の場面を増やしていく……。そういった笑顔の連鎖の出発点となれるように、日々努力を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三島団地の横にある小高い丘に事業所はあり、自然豊かな環境に恵まれている。代表者をはじめ管理者、職員は、理念に沿って利用者を「生活のパートナー」として考え、人としての尊厳を大切にしている。管理者は職員に向上心を持って仕事に取り組んでほしいと考えており、職員一人ひとりが毎月の目標を立て、日々切磋琢磨しながらサービスの向上に努めている。職員は、代表者や管理者と関係性は良く、事業所は和やかな雰囲気となっている。また、職員は一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを実践しており、利用者が穏やかに楽しく生活できるよう努めている。職員の研修にも力を入れており、人材育成とサービスの向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームわたしの青空

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成 26 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) リビングに理念を掲示し、日々の実践の検証軸として活かすように心がけている。</p> <p>(外部評価) 理念は事業所の開設時に代表者が作成している。利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、「介護を受ける、介護を提供する」のではなく、職員は利用者を「生活のパートナー」として捉え、職員全員で共有してケアに取り組んでいる。また、職員は利用者が話題の中心になり、話しやすいよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の保育所とは定期的に交流の機会があり、小学校とも不定期ではあるが交流の機会がある。また、地域の自主防災組織と合同で学習会や懇親会を行うなど、地域との交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 事業所に隣接する町営団地の住民を対象に認知症や車いすの移乗の仕方などの勉強会を開催し、事業所から地域へ情報を発信し関係性を築きつつある。事業所には、保育園児の訪問があり踊りを披露してくれたり、小学生が訪れ利用者とふれ合うなど交流をしている。近隣の住民が採れたての野菜を持って来てくれるようになるなど、管理者は地域とのつきあいが広がっていることを実感している。これからも地域住民との交流が深まるよう取組む姿勢が伺える。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年度は認知症に関する座談会を開催したが、本年度は地域の自主防災組織の役員を対象に、高齢者の移乗介助方法を紹介する機会を設けた。今後も機会の拡充に努めたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 事業所の考え方や努力の様子を積極的に開示していくことに努めていることもあり、利用者家族等からは、いつも事業所を後押ししてくださるスタンスでの発言が多く、大きな励みになっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、区長、町担当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の状況や課題等を報告し、参加者と意見交換をしている。最近、参加者に退所した利用者の家族が加わり、貴重な意見を聞くことができている。また、毎回会議前に特産品などの試食会やそうめん流しなどの行事を一緒に開催する工夫をしており、参加者から喜ばれている。これからも、より良い会議になるよう参加者や内容を検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議への毎回の出席をとおして、事業所の状況をよく理解していただいております、平素から懇切な支援をいただけるなど、良好な協力関係が維持できている。</p> <p>(外部評価) 町担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や利用者の相談をするなど、日頃から気軽に相談できる良好な関係を築いている。また、ヒヤリハットや困ったことの実情を伝えている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 「身体拘束等の排除の理念及び方針」を定めており、職員研修等を通じて、身体拘束をしないケアについての認識の徹底に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束等の排除の理念及び方針」を作成し、利用者に寄り添いながら見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所の新人研修に身体拘束等のテーマを取り入れ、職員会で話し合うなど理解して実践している。気になる行為があった場合には、管理者がその都度指導をしたり、職員同士で注意し合ったりしている。言葉の拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応を行っている。また、玄関は日中は開放し、利用者は自由に出入りしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の高齢者虐待防止についての意識の高揚に努めており、その徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際はもちろん、平素の来訪時に、くつろいだ会話の中からさりげなく意見や要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議の出席時や面会時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。家族は、遠慮をして要望を言わないことが多く、職員は話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。利用者には、ゆったりとした時間に職員が寄り添って聞くよう努めており、食べたいものの希望を言うことが多い。また、出された意見や要望には迅速に反映するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の定例職員会議時に、意見や提案を聞いており、また、必要な都度、意識調査を実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は、日々の業務の中で気づいたことを気軽に管理者に伝えることができるほか、毎月の会議で活発に意見が出されている。代表者と管理者は気さくで話しやすく、職員との良好な関係が築かれている。管理者は、職員の意見を尊重し、働きやすいシフトを作成するなど職場環境や関係づくりを大切して、コミュニケーションを図るよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務考課制度を導入し、評価基準を明確にして職員の意欲向上を図っている。また、希望する職員には、事業所負担で、産業カウンセラーのカウンセリングが受けられる制度もある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定例職員会議や必要に応じて開催する職員研修会が職員育成の主な機会となっている。法人外の研修等についても、情報提供に努め、職員の受講を促すようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 事業所開設時から伊予市の「グループホーム土香里」と親密な交流があり、学ばせていただいたことをサービスの質の向上に活かせるように努めている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス利用開始前に訪問面接し、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、事業所を見学していただき、家族等の話に耳を傾け、心配事や要望等を安心して話していただける関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まずは、生活を注意深く見つめ、本人の「できることは何か」、「やりたいと思っていることは何か」を見つけ出し、していくことに意識を傾け、どんな対応が必要かを考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の理念の中にこのことを掲げ、職員と利用者として「介護する側・される側」ではなく「生活のパートナー」であるとする捉え方を、全職員に徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月家族に届ける「通信」の担当者コメント欄を活用するなどして、利用者本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていこうとしている事業所の思いが伝わるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪された際、また次に来やすい印象を抱いていただけるように、温かい対応を心がけている。  (外部評価) 三味線の先生をしていた利用者以前のお弟子さんの訪問があったり、知人から季節毎に絵ハガキが届いたりしている。また、行きつけの美容室や提携している理容室の訪問があり、馴染みの関係ができています。調査時に、よく訪問がある利用者の姉妹の面会があり、心づかいをしながら対応する職員の姿が見られた。また、ドライブを兼ねて利用者の馴染みの場所に出かけている。また、家族の協力も得ながら馴染みの関係が継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係についての情報を職員間で共有し、すべての利用者が互いに尊重し合いながら楽しく穏やかに生活できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も、利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。中には、利用者が亡くなられて契約終了となった後も、引き続き運営推進会議に出席して下さっている方もある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ダイレクトに思いを伝えられない利用者のために、日々の生活の中で見られるさりげない言葉や行動から本人の意向をくみ取ることができるよう努めている。 (外部評価) 利用者の一人ひとりに向き合いながら、日常会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めている。入浴時や居室で職員と1対1になった時に、利用者から思いを聞くことが多い。把握が困難な利用者には、手を握ったりタッチコミュニケーションを図りながら、表情や行動を見て感じとることもできている。また、職員が個々に知り得た新たな情報は、記録をするなど職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から得た情報を職員間で共有し、介護計画に反映させることができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、介護記録や健康状態の記録をつけて、職員間で情報を共有し、細かな変化も見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 折りに触れて家族の意向を確認し、それと利用者本人の現状を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、忌憚のない意見を述べ合って、介護計画の作成に反映させている。  (外部評価) 利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいかを考え、利用者や家族の意見を反映して、担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。管理者は、職員の意見を聞き取りながら介護計画がより良いものになるよう努めている。毎月モニタリングをして評価を行い、半年に1回見直しをしている。また、状態の変化に応じてその都度見直しもしている。利用者の介護記録などは、個別に1冊のファイルに保管し、分かりやすく整理をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護日誌や介護記録に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスの際には、こういったものを客観的に見つめ直し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内の踊りの愛好者に踊りを披露していただいたり、地元高校吹奏楽部OGにお願いし、楽器を演奏していただいたりするなど、地域の人材活用に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かか りつけ医への連絡はこまめに行っている。  (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を職員が同行して受診がで きるよう支援している。月1回協力医の往診や歯科医の往 診が受けられる体制が整っている。専門医の受診に職員が 同行することもあり、医師に状態の報告等を行い連携を図 りながら利用者の健康管理の支援に努めている。また、受 診内容は家族に連絡し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格を有する介護職員に伝 えて相談するようにしており、常に適切な対応がとれるよ うに心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の病院関係者との情報伝達が円滑に進むように、 普段から病院の医師・看護師に対して報告・連絡・相談を こまめに行うことを心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から家族に十分な説明をしていただいた上で、主治 医・家族・事業所が合意文書を作成し、それに基づいた取 り組みを行っている。  (外部評価) 「看取り介護（ターミナルケア）に関する指針」を定め、 協力医と連携を図りながら看取り支援に取り組んでいる。 今までに5名の看取りの経験があり、利用者や家族の思い に寄り添いながら、穏やかな終末期を一緒に過ごすことが できた。これからも利用者や家族等の意向をその都度確認 しながら、利用者の思いを大切に安心して終末期を過ご せるよう取り組む方針としている。急変時に備え、管理者が 事業所に待機するなど迅速な対応ができる体制を整えている。 また、看取りなどの勉強会や話し合いを行い、職員の 不安解消などにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 非常時の協力体制について、本年度、地域の自主防災組織との間で合意ができたので、今後は事業所において合同訓練を定期的実施し、実効性の確保に努めたい。  (外部評価) 年2回避難訓練を行う方針であるが、今年度はまだ1回しか実施できていない。今年度、隣接する町営団地の自主防災組織と協力体制が築かれ、4月には合同防災訓練を実施する予定である。また、災害時には事業所を避難所として使えることを町営団地の住民に伝えている。水や食料など備蓄品等を用意し、利用者の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	職員だけでの利用者の避難誘導には限界があることを具体的に確認し、地域消防団等の参加を呼びかけ、事業所の災害対策に関する理解を求めていくことを期待したい。また、運営推進会議等を利用して事業所の見学会を開催するなど、地域住民に事業所を知ってもらい身近な関係性を築くことも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の利用者にあった話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。  (外部評価) 利用者の尊厳を大切にし、職員は敬語や方言をその時の状況で使い分け、利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意し、利用者一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。また、個人情報保護に関する方針を作成し、適切な取扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を素直に表現できるような雰囲気づくりを第一に考えて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、できる限り自由に、そして自分に合ったペースで過ごしていただけるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男女共に、希望に応じて訪問美容師によるカット・パーマを利用していただき、快適に過ごしていただいている。また、希望される女性利用者には、職員が化粧やマニキュアの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に、材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒にさせていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者の好みのメニューを聞いたり、季節毎に特別メニューを提供している。食材は宅配会社から届き、昼と夜は専属の調理職員が調理している。食事は、プレートでお好み焼きや焼きそばを焼きながら食べることもあり、利用者が楽しめるよう工夫をしている。職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話しながら食事をしており、台拭きや片付けなど利用者ができることを手伝うなど、楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分摂取量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない利用者には、スポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行うように努めており、可能な限りトイレで排泄するようになっている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。失禁のある利用者には紙パンツを使用したり、夜間にはポータブルトイレを使用するなど、利用者に合った支援をしている。ユニット毎に3か所トイレが設置されており、利用者の状態に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の水分摂取量をチェックしながら、適度な食物繊維や乳製品の摂取を心がけている。また、毎朝体操をして身体を動かすようにしており、どうしても便通のない時は、医師に相談して薬を服用していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫し、実際に入浴が好きになった利用者もいる。また、希望に応じて同性介助の対応をしたり、浴槽を跨げない利用者には2人体制で介助をし湯船に浸かってもらうなど、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと、自由に自分の時間を過ごしていただけるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は利用者別のロッカーに保管し、内容をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援することを心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況や希望によって、行き先や所要時間の長短には違いはあるが、可能な限り外出の誘いかけをし、支援するように努めている。	
			(外部評価) 小高い丘の上に事業所があるため、利用者の安全面を考え事業所周辺の散歩は難しく、玄関先で日常的に外気浴をして気分転換を図っている。利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、ドライブを兼ねて車いすの利用者と一緒に遠出したりしている。また、家族等の協力も得て外出できる機会を持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付け、こまやかな室温調節を心がけている。 居室入りロドアには、利用者が職員と一緒に作った折り紙の飾りのついたのれんを掛けている。</p> <p>(外部評価) フロアを中心にキッチンがあり、利用者の様子を見渡すことができる。リビングは広く、天井は部分的に吹き抜けになっており、天窓から自然な光が差し込み明るい空間となっている。利用者はソファなど思い思いの場所でくつろぐことができる。天井から季節の飾りつけを吊るし、季節感が感じられるよう工夫をしている。環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安心安全に過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごすことができ、また、気の合った者同士で語り合うこともできるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコンが備え付けとなっている。ベッドは普通と介護用の2種類があり利用者の状態に合わせて使い分けているほか、ベッドを使用せず床に布団を敷き寝ている利用者もいる。居室には使い慣れたタンスやテレビ、仏壇等が持ち込まれ、家族との写真や家族が持ってきた生花が飾られている。利用者の個性のある空間づくりがされており、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。また、居室の入口には訪室表がかけてあり、職員が居室の換気や入退室の確認、リビングと居室の温度差をなくすよう工夫をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 「できること」「分かること」の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。</p>	